



大分県における外国人留学生との多文化共創に向けた取り組み

大分県企画振興部国際政策課

大分県の概要

大分県は温泉の源泉数と湧出量が日本一で、近年では「おんせん県」として知名度を高めて来ていますが、実は「人口当たりの外国人留学生数」において全国トップクラスの県でもあります。

2016年度、大分県には87カ国・地域から3,516人の外国人留学生（短大・大学院を含む大学および高等専門学校に在籍する留学生）が在籍していて、人口10万人当たりの留学生数は303.1人と、京都府に次いで全国2位でした。2015年度においては大分県が1位で、ここ数年は毎年1、2位を争っているところです。

大分県が数多くの留学生を受け入れる契機となったのが、別府市と共同で誘致した立命館アジア太平洋大学（APU）の2000年開学でした。APUは開学の当初から3つの50（「留学生50%」、「外国籍教員50%」、「50カ国以上からの留学生」）という目標を設定していたこともあり、これ以降、多様な国籍を持つ外国人留学生が県内に急激に増えていくこととなりました。

地元では外国人留学生を歓迎するとともに、スムーズに大分での生活に溶け込んでもらうための受け入れ体制

づくりを進め、2004年には県内の外国人留学生を産官学で支援することを目的として、「NPO法人大学コンソーシアムおおいた」が設立されました。

大学コンソーシアムおおいたでは主な活動として、留学生の生活支援（生活資金の貸付け、賃貸住宅の保証、リユース物品の提供等）や地域交流活動（外国人留学生の小中学校等への派遣、語学教室や料理教室での市民との交流等）を行い、一般住民レベルで留学生に対する理解を深め、それによって留学生も気持ち良く大分での学生生活を送れるようになることを目指しています。

また、大分県でも私費外国人留学生が学業に専念できる環境を作るための経済的支援として、給付型の奨学金制度を設立しています。奨学生には県内スタディツアーや大分学の研修等に参加してもらい、大分県に対する理解と愛情を醸成してもらうことによって、将来的には本国と大分県との架け橋となってくれることを期待しているところです。

交流から定着へ ～おおいた留学生ビジネスセンターの誕生

このように、外国人留学生の受け入れと生活面での支援、地域住民等との交流が順調に進んでいった中で、次の段階として「外国人留学生の卒業後の県内定着（就職、起業等）」についても検討が進められました。

外国人なので、当たり前で日本で就職するという訳ではありませんが、一方で「高度外国人材の卵である留学生がせっかく大分県に来てくれて、4年間の大学生活でおおいた大分好きになってきているのに卒業して出て行ってしまふのは大変残念だ。」という声も多く聞こえてきます。

そうした中で、「おおいた留学生ビジネスセンター（愛称 SPARKLE スパークル）」が、2016年10月別府市に誕生しました。

スパークルは、全国の他地域では例を見ない「外国人留学生に特化した就職・起業支援施設」として大分県が

1 人口10万人当たりの留学生数（都道府県別）
（大学・大学院・短期大学・高等専門学校） (人、%)

	平成28年度	平成27年度	増減数	増減率
1 京都	307.5	2 283.4	24.1	8.5
2 大分	303.1	1 288.6	14.5	5.0
3 東京	246.3	3 235.9	10.4	4.4
4 群馬	189.4	7 113.3	76.1	67.2
5 福岡	153.1	4 160.2	△ 7.1	△ 4.4
6 茨城	146.7	6 119.4	27.3	22.9
7 石川	136.9	5 121.4	15.5	12.8
8 山口	126.7	8 111.9	14.8	13.2
9 長崎	102.9	9 97.4	5.5	5.6
10 岡山	101.3	10 91.5	9.8	10.7
全国平均	92.7	87.2	5.5	6.3

2 大分県の留学生数の推移 (人)

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28
大学・高専	3,782	3,535	3,385	3,209	3,380	3,516
専修学校	91	27	32	36	40	45
計	3,873	3,562	3,417	3,245	3,420	3,561
人口10万人当たり*	316	297	286	272	289	303
(都道府県別順位)	(1位)	(1位)	(1位)	(2位)	(1位)	(2位)

(*)人口10万人当たりの外国人留学生（短大・大学院を含む大学及び高等専門学校に在籍する留学生）



設置したものです。その目的は、人口当たりの外国人留学生数で全国トップクラスである大分県の強みを生かし、留学生の県内における就職や起業を支援するとともに、留学生と協働しての海外ビジネス展開を目指す県内企業等を支援することです。施設内には、起業支援室として個室2部屋とブース10席に加え、無料Wi-Fiが使える交流スペースや和室、フードビジネスの試作・研究用として厨房設備も備えています。



スパークルのインキュベーションマネージャーが、起業を目指す留学生の事業計画等について指導します



無料Wi-Fiが使えるスパークル交流スペース



スパークルを利用する留学生たち

運営については、大学コンソーシアムおおいたへ委託し、シニアインキュベーションマネージャーの資格を持つIM室長をはじめ、スタッフ3人体制となっています。

相談業務としては、スタッフによる常時の相談受付に加えて、専門家によるビザ（在留資格）の相談会や就職、起業相談等を行っています。また、先輩起業家との交流会や、県内企業の社長等との交流会などの事業も実施しているところです。

利用の状況については、スパークル全体として、月平均で延べ450人以上もの利用者数となっています。専門家による無料相談会でも、とりわけ留学生には理解が難しい在留資格の変更については知識、経験豊富な行政書士が懇切丁寧に対応し、昨年秋の開設から早くも今春には、実際に卒業後の大分県内での創業（就労ビザへの変更）につながった留学生の実績も出ています。

定着から共生へ ～これからの大分県の多文化共生

外国人留学生は国と国、地域と地域を結ぶ未来の架け橋です。特に大分県においては、高度外国人材となる留学生が全世界の数多く、多様な国・地域から来ていて、大学のキャンパス内で学ぶとともに地域へ飛び出し、地域住民とも積極的に交流を図っています。

地域住民の方でも留学生をはじめとする外国人に心を開くという変化が見られ、もはや地域経済、生活面においてその存在はなくてはならないものになっています。

また、スパークルの誕生により、これからは卒業後も大分県内に定住する外国人が、さらに増えていくと考えられます。87カ国・地域からの外国人留学生を受け入れている大分県ですので、今後も言語、文化、歴史、宗教、慣習等まさに多様性に富んだコミュニティの形成が進み、広がり、深化していくことが想定されます。

大分モデルの多文化共生は、外国人留学生の受け入れから始まって、以降、留学生と住民との密度の濃い地域交流活動によって創り上げて来たものといえます。

人口減少期を迎えた日本の地方として発展を考える上で、貴重なモデルにつながるものと考えます。また、外国人観光客の増加やネットビジネスをはじめとした海外とのビジネス展開の増加は留学生に活躍の場がますます開かれることにつながります。